講義名	対)自己発見とキャリア開発Ａ（K24：木金クラス）				
担当教員	桑原　桃音				
開講期・曜日・時限	前期 木曜日 １時限／前期 木曜日 ２時限／前期 金曜日 １時限／	授業形態	演習		
履修開始年次	１年生	単位数	8	備考	

主題と概要

流通科学大学では4年間の教育課程の初めに「気づきの教育」を置いています。気づきの教育の目的は、自発的で積極的な行動を伴う多数の経験を通して得られる様々な「気づき」から、一人一人の「なりたい自分（夢の種）」を探し、それに応じて本学での４年間の学びをより充実させ、意義あるものにすることです。「自己発見とキャリア開発A」は、「気づきの教育」の幹となる必修科目です。
大学での学びや社会に出てからの基礎となる能力について、気づいて向上させます。職や学び、ならびにその関連性について自らに即して気づきます。それらを踏まえて、将来の夢や目標をつかみ、将来を見据えた「４年間の学びの道筋（キャリアビジョン）」を作成します。

到達目標

最終的な到達目標は「III」であるが、そのためには、「Ⅰ」、「Ⅱ」をしっかり達成していることが大切です。
Ⅰ．6つの基礎能力の必要性に気づき、自分の現状を知り、向上させることができるようになる。また今後の継続的な向上のきっかけをつかんでおり、向上し続けることができるようになる。（6つの基礎能力とは、「コミュニケーション力」「グループワーク力」「気づき力」「創造力」「学び力」）
Ⅱ．「職」「学び」「両者の関係性」について、自分自身に即して様々な気づきを得て、理解できるようになる。
Ⅲ．様々な気づきに基づき、自分自身に即して考えた上で、自分自身の将来の夢や目標を持ち、将来を見据えた「４年間の学びの道筋（キャリアビジョン）」を獲得できるようになる。

提出課題

講義資料に附属のワークシートを作成し、プログラムによっては、ポスターなどを作成します。これらは、直ちに提出する場合、宿題として提出する場合、学生本人が保管して随時教員がチェックする場合など、様々です。いずれにしても、皆さんの貴重な成果物となります。成果物は後のプログラムで使う場合があります。講義資料は最後まで絶対になくさないように十分に注意してください。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

提出されたワークシートは、適宜返却して講評・解説します。その他のポスターやスライド等の提出物についても講評・解説します。

評価の基準

各プログラムへの取り組み姿勢と上記のⅠ～IIIの到達目標が達成されたかどうかによって成績評価します。
取り組み姿勢については、出席状況や取り組みの態度、積極性、真面目さなどで総合的に評価されます。
到達目標が達成されたかどうかは、ワークシートやポスターなどの成果物で判断することになりますが、取り組み姿勢が適切であれば到達目標が達成されるようなプログラムになっています。ワークシート類には自らの気づきを十分反映させ、他者が見て分かる充実したものにして下さい。
遅刻・欠席が多かったり、取り組み姿勢が適切でなければ、低い評価になったり、不合格になったりします。１／４以上の欠席は不合格になります。欠席が１／４より少なくとも、取り組み姿勢が不適切であったり、成果物が不十分であったりすると、不合格になります。不合格の場合、夏休みの補習への出席や、後期に特別の科目や追加の科目を履修する必要が生じます。
遅刻や欠席・まじめでない取り組み姿勢は、自分自身が損をするだけではなく、クラスやグループの他のメンバーに迷惑をかけることになるので避けてください。
結局のところ、遅刻欠席をせずにまじめに出席して、積極的に各プログラムに取り組むことが、到達目標の達成に結び付き、高い評価を得ることにつながります。

履修にあたっての注意・助言他

この科目は必修科目であり、対面での授業で実施します。あらかじめ割り付けられたクラスで受講して下さい。「通学困難届」を提出した学生は、もとのクラスに所属しながら、月、火、木、金の6時間目に開講（予定）される「オンラインクラス」で受講していただきます。感染者にに指定されるなど一時的に通学が禁止となった学生に対しては、LIVEでオンライン参加する、オンデマンドで動画を視聴して課題を提出するなど、プログラムごとに様々な方法で、元のクラスで対応します。「オンラインクラス」への移動は行いません。
（１）失敗を恐れない：この科目では様々な体験をするが得意なことも苦手なこともあるだろう。失敗してもかまわないので、積極的に取り組んでほしい。失敗から成長が生まれる。
（２）周囲への配慮を忘れない：共に学ぶ仲間を尊重しよう、そして、他の人の取り組みをからかったりばかにしたり、私語や迷惑をかける行為はやめよう。また、フィールド演習などで外部の人と接し、卒業生や企業人をお招きすることもある。普段から言葉遣いやマナーに注意して、社会人としての振る舞い方を身につけよう。
（３）遅刻・欠席は厳禁：自分自身が損をするだけではなく、グループの他のメンバーに迷惑をかけることになる。
（４）楽しもう：この科目を受講した先輩学生の多くは、「大変だけれどもやってみてよかった」「楽しかった」「力がついた」と言っています。皆さんも、積極的に楽しんでこの科目を受講して下さい。
（５）分からないことがあれば、授業中に担当教員に遠慮なく相談すること。

教科書

プリント資料及び参考文献

資料は各プログラムごとに配布します。多数の資料があるので、きちんと整理して保管してください。

授業計画

シラバス作成時点での予定であり、実際の学習計画とは少し異なる可能性があります。クラスミーティング実施時に詳細な計画を配布します。「通学困難届」を提出した学生は、もとのクラスに所属しながら、月、火、木、金の6時間目に開講（予定）される「オンラインクラス」で受講していただきます。感染者にに指定されるなど一時的に通学が禁止となった学生に対しては、LIVEでオンライン参加する、オンデマンドで動画を視聴して課題を提出するなど、プログラムごとに様々な方法で、元のクラスで対応します。「オンラインクラス」への移動は行いません。
Stage1
（０）クラスミーティング、（１）コミュニケーションキャンプ、（２）建学理念講和、（３）オリエンテーション、（４）大学での学び、（５）キャンパスマナーとキャンパスライフ
Stage2
（６）図書館活用演習、（７）中内功記念館・ダイエー資料館講座、（８）キャンパスマナー講座、（９）コミュニケーション演習①、（１０）担当クラス独自プログラム
Stage3
（１１）資格特別プログラム講座、（１２）職の気づき(全体講話)　（１３）先輩との交流①、（１４）大学人との交流、（１５）職業人との交流①卒業生との交流、（１６）適性検査活用講座、（１７）職業人との交流②地域と関わる職業人、（１８）コミュニケーション演習②、（１９）職業人との交流③企業人との交流、（２０）クラス縦断プログラム①、（２１）国際交流プログラム
Stage4
（２２）フィールド演習①～⑥、（２３）働く意味(講話)、目標設定(講話)、（２４）先輩との交流②、（２５）なりたい自分に向けての行動計画、（２６）ポートフォリオ作成講座、（２７）クラス縦断プログラム②
Stage5
（２８）ポートフ ォリオ、目標設定スライド作成、（２９）個別面談、（３０）成果のまとめと発表・今後の課題、（３１）「自己発見とキャリア開発Ⅱ」・後期に向けて

授業形態（アクティブ・ラーニング）

	ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
○	ウ：ディスカッション、ディベート	○	エ：グループワーク
○	オ：プレゼンテーション	○	カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（ＡＬ型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

１回の講義について、学則ならびに文部科学省の大学設置基準においては、４時間の自己学習が必要とされています。したがって、この科目は１週間に４回の講義があるので、規則上は1週間に１６時間の自己学習が必要とされていることになります。
各プログラムごとに作成するワークシート、振り返りシートなどは、宿題とされる場合もあります。フィールド演習の取りまとめなど、グループで授業時間外に打ち合わせや作業をする必要が生じます。
ただし、ここで強調しておきたいのは、気づきの教育の目的を達成するには、このような科目の評価に関わる予習・復習だけをしておればよいのではないことです。この科目で身に付ける「体験から学ぶ」という態度は、学生生活の様々な場面で生かせるはずです。学生生活のあらゆる場面を「学び・気づき」の場として活用していただくことを、願っています。このような活動も、広い意味での「授業時間外学習」と言えるかも知れません。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この科目の修得で、向上し続けることができるようになる6つの「基礎能力」と、本学の学生が卒業時に共通して身につけておくべき資質・能力の5項目は次のように関連しています。
「コミュニケーション力」「常識力」「学び力」の向上は「『ネアカ のびのび へこたれず』の精神をもった人材」に繋がります。「気づき力」と「学び力」の向上は「知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材」に繋がります。「気づき力」と「創造力」の向上は「創造力（新しい視点と豊かな発想）を持った人材」に繋がります。「コミュニケーション力」「グループワーク力」「気づき力」「創造力」の向上は「自主・自立の精神を持った人材」に繋がります。「コミュニケーション力」と「グループワーク力」の向上は「仲間と協同して、物事を成し遂げることができる人材」に繋がります。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

この授業の運営は、ほとんどのプログラムのほとんどの場面においても、学生間ならびに、学生・教員間の相互啓発的な刺激の下に行われます。常に双方向授業として行われます。

実務経験の有無及び活用

この授業の担当教員の中には実務経験のある教員も多くいます。実務経験のある教員は、折に触れ自身の経験を伝える機会を設け、学生がこの科目の目標を達成するための援助をします。

備考